



FINE PLACE | 2021 | 08 | 特集

空き家再生事業 <インタビュー>

空き家となった住居や倉庫をリフォームし新たな価値とご縁を生み出しています。

住まい手
鈴木 晶子さん
(陶芸家)



エンラックストーリー 空き家再生インタビュー編

ナルシマ不動産事業部エンラックの空き家再生事業を担当する山森と、陶芸家の鈴木さんが対談し、今月号表紙の実例をご紹介します。



▶九谷五彩と呼ばれる五色（緑・黄・紫・紺青・赤）を使った鈴木さんの作品。小皿や器などの実用的な陶器からかわいらしい置物まで、幅広く手掛けています。



▶絵付けはすべて手作業。自由な絵画風に描くこともあれば、繊細な文様を描くことも。写真のような小皿なら1日20枚程度仕上げるそうです。



▶敷地内に別につくられた窯小屋。電気式の窯や粘土をこねる装置を設置して作業をします。毎年つくっている千支の置物は人気の作品の一つです。



▶鳥が好きで、絵柄にもよく使われます。鈴木さん（右）が手にしているのは昔の小紋を現代風にアレンジしたお気に入り。某アニメ映画の影響か、レトロ調の柄が大人気とのこと。

鈴木 晶子さん（陶芸家）

福井県出身。金沢大学で考古学を学んだ後、陶芸の道へ進む。2004年、九谷焼の産地石川県に工房『あじ屋』を設立。2014年に取手市へ移住。



■ブログ「あじ屋ピッチカ2」<https://blog.goo.ne.jp/pizzi-pizzi>

一般住宅の空き家をアトリエに改築して再活用

山森 この住まいはナルシマも参画している「取手アート不動産（※1）」の物件の一つとして、クリエイターの方に住んでいただくことを前提に募集したものでした。

鈴木 たまたま主人の仕事の都合で東京近辺に引っ越すことになり、ネットで情報を知りました。以前住んでいた石川県の工房はパン屋さんを改装したもので、作業場と窯が同じ部屋にあったため暑くて大変だったんです。この家では和室を作業場に改装できるうえ、窯小屋も別に建てられるということで、願ったり叶ったりでした。

山森 鈴木さん以外にも県内外から多数の応募があり、需要が結構あることを知って驚きました。ただ、応募者の職種によって条件がさまざま、鈴木さんのご要望が一番ぴったりだったんです。

取手の好環境を利用して、石川県からも仕事を受注

山森 ご専門は九谷焼の絵付けでしょうか。どのようにお仕事をされているのですか。

鈴木 金沢市にある小売店の仕事をよくしているのですが、小皿やマグカップの素焼きの生地を送ってもらい、それに絵付けをして送っています。デザインなど細かい打ち合わせはネットを使って画像を見ながらやるんですよ。他にも生地から絵付け、仕上げまですべて自分でやり、都内のデパートの展示会に出品することもあります。

山森 今で言うリモートワークを6年前から実践されていたんですね！

鈴木 そうですね。ここは住宅地ですから作業に集中できる落ち着いた環境もありますし、仕事に必要なインフラも整っているので、離れていても問題なく仕事ができますよ。

ご近所の方々と交流しながら心地よい関係が生まれる

山森 リモートを活用する一方で、ご近所のファンの方も多そうですね。

鈴木 作業をしている姿や棚に並んだ作品を見かけて声をかけてくださる方が多いです。ちょうど大きなデッキもあるので、毎月第2日曜日に作品を並べて「日曜日」をやったりしています（※2）。これは商売というより、ご近所の方とのんびり世間話をするのが楽しいですね。こうして無理なくマイペースを保てるからこそ陶芸の仕事が続けられているのだと思います。そういう意味でも取手でこの家に出会って、本当に良かったと実感しています。

山森 お役に立てて嬉しいです！空き家再生を通じて住む人と街のご縁を広げていくことがナルシマの理想です。今日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

※1：取手市内に東京芸術大学のキャンパスがあることをきっかけに、アーティストのアイデアを活かした不動産事業を展開。ナルシマは空き家のリフォームなど施工面と入居者募集面で協力しています。
※2：個展開催等の事情により8、9月はお休み。10月から再開予定です。

en+luck
<http://entluck.net/>



『TRIDE TREE PROJECT』その2

4月号でお知らせした樫の木の製材を実施。手づくり家具製作に向けて一歩前進しました。



▶テーブルに使えるような板を切り出し、笑顔の筒間さんと小栗さん。



▶慎重に切り進める筒間さん



▶幹の内部にはかなりの傷みが



▶この傷も「味」になるか？



▶打ち合わせ中のプロジェクトメンバー



ざいもく屋（有）成島商店のホームページが完成しました！

ざいもく屋の新しいホームページはご覧いただけましたか。「DIYワークショップ木のはこ」の情報から、ざいもく屋（有）成島商店の歴史、案外知られていないざいもく屋で出来ること等々を掲載。右記QRからぜひご覧ください。

「ざいもく屋」「木のはこ」の雰囲気が伝わるように動画で見られるようにしました。



Instagramでハッシュタグ「#木のはこ成島商店」を付けて投稿すると自動的に作品が表示されるんです。

「アロマボンボン」と「ストリングアート」のつくり方動画も見られますよ。



DIY男子の参加も急増中です！

最近は男性の参加も増えてきました。お一人の方、ご夫婦の方、皆さん楽しく製作されています。木のはこでは「あ、こんなあったらいいな」という作品を作りますので性別や年齢を問わずどなたでもお気軽に参加できます。また、DIYが初めての方もスタッフがお手伝い致しますので、ぜひ、始めてみませんか？



8月の「DIY ワークショップ 木のはこ」はお休みいたします。
9月は「木工DIY」を予定しています。

お申し込み方法

木のはこ LINE を登録済みの方は今まで通りにご予約できます！

初めてご予約の方はこちらのQRから木のはこLINEへつながりますのでお友達追加をしてお申し込みください。

ざいもく屋（有）成島商店 HP / 木のはこ予約申し込み方法



LINE 申し込みができない方は下記にお電話ください。

DIYワークショップ 木のはこ

ざいもく屋（有）成島商店

会場 取手市駒場 2-14-12

☎ 0120-885-119



職人紹介 Shokunin File

ナルシマの電気工事を担当して早二十数年。今では二人の息子さんも跡を継ぎ一緒に仕事をする一方、娘さんは画力を活かして現場ポスターを作るなど、家族ぐるみで安心・安全な現場づくりにも努めています。

モットーは「丁寧な仕事をする事」。ナルシマの家は梁が現しになっていることが多いので、照明器具の配線が見えないよう工夫を凝らします。また最近では新しい電気製品が次々と出るのに合わせて、お客さまに聞かれてもすぐ答えられるよう勉強を欠かしません。やさしいお人柄ゆえ、他の職人からの信頼も絶大。職人会の会長を務めた際は「気持ちはみんな通じているので私は特に何もませんでしたよ」と言うものの、大感謝祭の前には雨が降らぬよう、安全に開催されるように一言主神社にお参りに。さすが、見えないところの気配りは一流です。



▶大事な行事の前には一言主神社に参拝に



▶丁寧な仕事は父親譲り

（株）松枝電気商会

松枝 清正 (55)

休日は地元の野球チームで汗をかくのが楽しみです。打順は1番か2番。「小柄だからフォアボールになりやすいんだよ」(笑)。

Shokunin File.04
Kiyomasa Matsueda



「跡を継ぐのは当然と思っていた」というご長男の佑樹さん。最近では商工会のイベントのお手伝いに精を出しているそう。

佑樹 (34)

Yuki Matsueda



はみだしレポート

ワクチン接種が済みました。少しは安心材料になるのかもかもしれませんが、マスク着用は変わらずで、暑さとの戦いが続きますね。(久美子)